

国際医療福祉専門学校七尾校

自己点検・評価書

令和 4 年 5 月

国際医療福祉専門学校七尾校

自己点検・評価書について

この自己点検評価は「専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規程（平成25年文部科学大臣告示第133号）」が平成25年8月30日に公布・施行されたことに
対し、平成25年度から実施したものである。職業実践専門課程とは、専修学校の専門課程
（以下「専修学校専門課程」という。）であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力
を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について
組織的な教育を行うもの（以下「職業実践専門課程」という。）を文部科学大臣が認定し
て奨励することにより、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを
目的としている。

本校では、「確かな技術力と豊かな人間性を育む」という理念のもと「教育基本法及び学校教育
法に基づき専修学校教育を行い、救急救命士、理学療法士、及び介護福祉士として必要
な知識及び技能を教授し、社会に貢献できる人材を育成すること」を教育目的として即戦
力としての専門職の育成に努めているところであるが、この自己点検評価結果を公表し、
外部からの第3者評価を受けることで学校運営、学生教育において改善できるところは改善
し、より良い学校にしていきたいと考える。

令和4年5月 国際医療福祉専門学校七尾校

評価項目の達成及び取組状況

I. 教育理念・目標

4: 適切、3: ほぼ適切、2: やや適切、1: 不適切

評価項目		4	3	2	1
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	☒	☐	☐	☐
2	学校における職業教育の特色は何か	☐	☒	☐	☐
3	社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	☐	☒	☐	☐

I-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか

【現状】

本校の理念は「確かな技術力と豊かな人間性を育む」であり、目的として「教育基本法及び学校教育法に基づき専修学校教育を行い、救急救命士、理学療法士及び介護福祉士として必要な知識及び技能を教授し、社会に貢献できる人材を育成すること」を掲げている。このような理念・目的から、高度な専門性と愛情あふれる人間性を兼ね備えた即戦力としての専門職という育成人材像が見出されている。

【改善方策】

学校の理念の実現、目的・育成人材像を達成するための教育目標の検討・再検討を適時行い、より具体的に明示していくことが必要である。また、学生・保護者、地域住民に対しても本校の考えが十分に伝わるように、定期的な広報、学校内外等での提示を行っていく。

I-2 学校における職業教育の特色は何か

【現状】

臨床に基づいた技術の向上を主目的とした専門教育、社会人基礎力向上を目的とした職業レディネス教育の二大教育を展開し、即戦力としての専門職の育成に努めている。

【改善方策】

専門技術、社会人基礎力に焦点を当てることで、大学との差異化を明確に保ちながら、地域社会へ貢献できる即戦力としての人材育成に努めていく。

I-3 社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか

【現状】

本校は救急救命士・理学療法士・介護福祉士の養成校であり、日々、社会保障制度の改変によって当該職種の業務拡大等が進んでいる。また、2042年に向けて高齢社会が進んでいく中で、医療・福祉専門職のニーズは一層高まっていくことが予測されるが、少子高齢、地方都市の過疎化という現状に対して本校の立地条件を考慮すると、入学者数の安定化を図っていくことは大きな課題となる。

【改善方策】

診療報酬・介護報酬・各職種法の改定によって変化していく医療・介護現場、各専門職の職域・業務拡大に迅速に対応できる教育体制を継続的に検討していく。また、地域交流、北陸の高等学校との情報共有を引き続き行うことにより、本校の学科を含めた医療・福祉分野の認知度を上げていくことに努める。

Ⅱ. 学校運営

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
4	目的等に沿った運営方針が策定されているか	☐	☒	☐	☐
5	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	☐	☒	☐	☐
6	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確にされているか、有効に機能しているか	☐	☒	☐	☐
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	☐	☒	☐	☐
8	意思決定システムは確立されているか	☐	☒	☐	☐
9	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	☒	☐	☐	☐

Ⅱ-4 目的等に沿った運営方針が策定されているか

【現状】

委員会への権限移譲等によるボトムアップ方式の意思決定システムを活用した運営を行っている。学内の運営方針策定機関としては全体会議が位置しており、当該委員会にて運営方針の明確化を行っている。

【改善方策】

本校を運営する学校法人との連携強化を図っていくことが必要である。

Ⅱ-5 運営方針に沿った事業計画が策定されているか

【現状】

本校の目的等に沿った教育活動計画立案は教務委員会と学生生活委員会が担っており、年次単位での学校事業等の実施、見直しが行われている。

【改善方策】

運営方針の明確化を図り、適切な運営方針に則った学校事業計画の策定を適時行っていく。

Ⅱ-6 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確にされているか、有効に機能しているか

【現状】

運営組織や意思決定機能についての規則等は学内で管理しているが、本校を運営する学校法人全体としてのものは不明確である。

【改善方策】

本校を運営する学校法人との連携を密に図っていくことが必要である。

Ⅱ－７ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか

【現状】

職業実践専門課程の規程によって、本校ホームページ、学校案内パンフレット、SNS（ソーシャルネットサービス）、雑誌等にて幅広く本校の教育活動等の取り組みの情報を公開している。

【改善方策】

今後も継続してホームページによる情報公開の強化を図っていく。

Ⅱ－８ 意思決定システムは確立されているか

【現状】

各委員会にて各々の分野の計画、審議等を経て、定例の全体会議にて決定をしていく。教務部、事務部の審議事項においても全体会議が最終意思決定の場として位置付けられている。各委員会は定例会議を実施し、審議事項等を全体会議で報告することで、全教職員が本校の現状を詳細に把握して問題意識を持って学校運営に携わっていくことを目的としている。

【改善方策】

合理的で効率的な組織編成を継続して検討していく。

Ⅱ－９ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

【現状】

LAN サーバーを用いて職員間で情報を共有し、業務の効率化を図っているが、情報量の増加によりフォルダ、ファイル整理を徐々に行っている。

【改善方策】

共有フォルダの整理を定期的に行っていく、情報システムを最大限に活用していく。それと同時に、IT のみに意識を向けることなく、職員間の交流を密に行い、連絡・報告・相談機能をより意識的に高めていく。

Ⅲ. 教育活動

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
10	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	☐	☒	☐	☐
11	修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	☐	☒	☐	☐
12	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	☐	☒	☐	☐
13	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	☐	☒	☐	☐
14	授業評価の実施・評価体制はあるか	☐	☒	☐	☐
15	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	☒	☐	☐	☐
16	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	☐	☒	☐	☐
17	資格取得に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	☐	☒	☐	☐
18	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	☐	☒	☐	☐
19	職員の能力開発のための研修等が行われているか	☐	☐	☒	☐

Ⅲ－10 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

【現状】

教育課程の編成は、本校の理念である「確かな技術力と豊かな人間性を育む」という方針に基づき、教育課程の編成がなされ、実施方針も明確に策定されていると思われる。

【改善方策】

今後も、実践力のある人材を養成すべく、具体的な方策をとっていく。

Ⅲ－11 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか

【現状】

1年次は基礎学力の習得と、社会人としての基礎能力の向上、2年次に理学療法評価の方法論と学内実習、3年次に臨床実習で2年次までに学んだことの実践を行い、国家試験合格を目指す。各学年の明確な教育到達目標が設定されており、その取得のための学習時間確保もほぼ明確にされている。

【改善方策】

今後も継続して教育到達レベルや学習時間について検討していく。

Ⅲ－12 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

【現状】

教育課程編成委員会にて適時、教育カリキュラムの体系について検討し、専門教育内の分野の適正化を図っている。

【改善方策】

授業展開を進めるうえで、教育カリキュラムの編成が必要であるかの検討を引き続き実施していく。

Ⅲ－13 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

【現状】

入学前オリエンテーションを開催し、座学形式でコミュニケーションに関する講義を行っている。その他、入学前の課題として一般漢字や数学に加えて医学漢字、解剖に関する記述用冊子を配付し、実施している。職業像についてのレポートも課している。

【改善方策】

今後も、具体的な職業イメージを早期から育むための試みとして、1年次に県リハビリテーションセンターの施設見学などを取り入れているが、その他の施設見学等もできるようにしていく。

Ⅲ－14 授業評価の実施・評価体制はあるか

【現状】

各学期末にアンケート形式による学生授業評価を実施している。

【改善方策】

今後も継続して各学年末の授業評価を実施し、その結果のフィードバックを行うことで、改善方策を見出していくことができるように努める。

Ⅲ－15 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか

【現状】

平成 27 年度より職業実践専門課程の認定も受け、外部関係者からの評価を得ること、学校運営・教育編成について外部関係者の意見を取り入れることを目的とし、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を定期的に開催していく。(年に各 2 回以上)

臨床実習に関しては、臨床実習指導者を招いての会議を随時行っており、教育方法や学生指導について意見を聞き、改善策を話し合っている。なお、理学療法学科はリハビリテーション教育評価認定審査を受けている。

【改善方策】

引き続き、外部からの意見を取り入れた学校教育体制づくりに努めていく。

Ⅲ－16 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか

【現状】

成績評価・単位認定等は明確な基準を設け適切になされ、学年末に開催される成績判定会議にてそのつど決定されている。

【改善方策】

今後も、明確に評価を行って行く。

Ⅲ－17 資格取得に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

【現状】

国家試験対策を 1 年次から取り入れて、各学年次における到達点を評価する学年末実力試験を取り入れている。その他、プロフェッション養成講座等で社会人基礎力の強化も行っている。

【改善方策】

資格取得に対する指導は適切になされており、今後は明確にカリキュラムの中にわかりやすく位置づけていく。

Ⅲ－18 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

【現状】

専任教員は皆キャリア豊富であり、人材育成にたけている教員が揃っている。

【改善方策】

時代に即した教育指導を行い、あらゆる社会で通用する人材を養成する方法論を取り入れていく。

Ⅲ－19 職員の能力開発のための研修等が行われているか

【現状】

各協会で行う研修会・講習会に専任教員を参加させている。プログラムを組んで定期的に教員に対しての学内、学外での研修体制は、的確には確立されていない。各個人で研修、学会等に参加している。

【改善方策】

今後は学内での研修体制を確立していく。

IV. 教育成果

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
20	就職率の向上が図られているか	☒	☐	☐	☐
21	資格取得率の向上が図られているか	☐	☐	☒	☐
22	退学率の低減が図られているか	☐	☒	☐	☐
23	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	☐	☐	☒	☐

IV-20 就職率の向上が図られているか

【現状】

2 年次から就職希望調査を行い、早い段階から就職に対する意識付けを行っている。また、最終学年次から面接指導や履歴書作成指導、小論文対策などの就職試験対策を細かに指導している。

【改善方策】

今後も、継続して早期から指導する。

IV-21 資格取得率の向上が図られているか

【現状】

国家試験対策委員会を中心として、1 年次から国家試験対策プログラムを組み、国家試験取得 100%を目標に取り組んでいる。最終学年次の臨床実習終了後から国家試験対策集中講義を豊富に取り入れて実施している。また、1 年次から基礎医学を中心とした国家試験関連の講義を授業の中でも取り入れている。基礎学力の向上しない学生に対する個別指導も行っている。

【改善方策】

今後も、基礎学力の向上しない学生に対する個別指導を 1 年次早い段階から徹底して行っていく。

IV-22 退学率の低減が図られているか

【現状】

学力、精神的な問題で単位取得困難な学生は毎年数名出ており、休学をはさみ退学する学生もいる。ドロップアウトしそうな学生に対しては 1 年次前期定期試験終了時から、学業、精神面のケアを手厚く行っている。

【改善方策】

今後も、教職員が学生の状況を随時、共有し支援する体制をつくり、ドロップアウトしそうな学生に対する学業や精神面でのケアも手厚く行っている。

IV-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

【現状】

同窓会と連携し、卒業生を招いて在学生に向けて活躍状況などの情報交換を行っている。その他、在学生については定期的な面談を通して社会的活動の状況把握に努めている。

【改善方策】

卒業生・在校生の社会的な活動はある程度把握しているが、学生の対外的な評価についても今後把握して、社会貢献できる人材の育成に役立てていきたい。

V. 学生支援

4: 適切、3: ほぼ適切、2: やや適切、1: 不適切

評価項目		4	3	2	1
24	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	☒	☐	☐	☐
25	学生相談に関する体制は整備されているか	☐	☒	☐	☐
26	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	☐	☒	☐	☐
27	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	☐	☒	☐	☐
28	課外活動に対する支援体制は整備されているか	☐	☒	☐	☐
29	学生の生活環境への支援は行われているか	☒	☐	☐	☐
30	保護者と適切に連携しているか	☒	☐	☐	☐
31	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	☐	☒	☐	☐

V-24 進路・就職に関する支援体制は整備されているか

【現状】

学科ごとに、担任が主導となり学生に対する個別指導を行っている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

V-25 学生相談に関する体制は整備されているか

【現状】

相談内容や学生の個性に応じて、適格と思われる教員が個別の相談に応じている。その後、全体会議にて教職員間で情報共有を行い、対応策を講じている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

V-26 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

【現状】

経済的支援を必要としている学生に対して、日本学生支援機構奨学金制度をはじめ地方公共団体の奨学金制度などを取り扱っている。

入学時、転学科時、留年（原級留置）時の減免型奨学金および入学時、在学時の成績優秀者への給付型奨学金の制度もある。また、安価な学生寮や無料の送迎スクールバス等を運行し経済的負担を軽減している。

【改善方策】

今後も定期的なオリエンテーション等を通して制度の内容について周知を行う必要がある。また、経済状況に応じて改善していく必要がある。

V-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

【現状】

学生の健康管理について、学校医を配置し、その他に入学時の健康調査や在学時の定期健康診断等を実施している。流行感染症対策として抗体検査を実施し、抗体値が不十分な学生に対してはワクチン接種の指導を行っている。健康指導は健診結果等をもとに担任が中心となり個人面談を行っている。その他、1年次に『たばこ』に関する講義をおこない、喫煙教育への関心および対策を早期に取り入れている。

【改善方策】

学生生活委員会内に健康管理に関する窓口をつくり、定期健康診断の実施のみならず、日常の健康・メンタルヘルスマネジメントについても徹底し、医療機関との連携も図っていく。

V-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか

【現状】

学校所在地近隣地域の医療・福祉・介護分野の施設・機関等から依頼されたボランティア活動を掲示し、希望する学生の課外活動を支援している。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

V-29 学生の生活環境への支援は行われているか

【現状】

学生生活委員会により、全学生（特に学生寮入寮者）には随時生活指導を行うとともに生活環境の改善に向けて環境整備を行っている。ゴミの分別や生活マナーに関する指導も全体集会などをおこなっている。その他、定期的に寮長会議を開き、各寮における生活面の問題把握とその改善に努めている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

V-30 保護者と適切に連携しているか

【現状】

1年次に保護者懇談会、2年次に臨床実習前オリエンテーションを行い、保護者との情報共有ならびに連絡調整を密に行っている。また、必要に応じて保護者との個別面談ならびに学生を交えた3者面談を行っている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

V-31 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

【現状】

入学前オリエンテーションや職種紹介、模擬授業を行うことにより、キャリア教育として高校・高等専修学校等との連携を行っている。年に1～2回高校教員ガイダンスを実施し、本校の特色等についての説明会を実施している。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施し、その活動範囲の拡大をはかっていく。

VI. 教育環境

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

	評価項目	4	3	2	1
32	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	☐	☒	☐	☐
33	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	☐	☒	☐	☐
34	防災に対する体制は整備されているか	☐	☒	☐	☐

VI-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

【現状】

各学科の専門領域における知識・技術の修得に必要な施設・設備は適切に整っている。一部の機材において老朽化による使用が困難になることが予測されるが、現在は使えなくなった主要な設備はまだ無い。グループワーク学習等で自由に使える学習室を設置している。加えて、キャスター付きホワイトボードや持ち運び型ホワイトボードなどのグループワーク資材の充実化を行っている。一方、最新図書の補充が十分でないのが現状である。

【改善方策】

計画的に老朽化した機材の交換や最新図書の購入を検討していく必要がある。

VI-33 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

【現状】

学内外の実習施設は整備されており、臨床実習もカリキュラムの中で十分に行われている。海外研修制度等は学科としては行われていない。

学内実習において教育疾患モデルとして障害のある方を招いての実習を2年次後期に実施している。学外実習の新規実習施設の追加登録は随時行っている。

【改善方策】

今後は、グローバル社会に対応すべき、海外研修を希望する学生が出てきた場合は、個別的には対応していきたい。

VI-34 防災に対する体制は整備されているか

【現状】

年に1回防災訓練を実施し、教職員ならびに学生に対して防災意識の向上を図り、避難方法、避難経路等の確認をしている。しかし、防災訓練は年に2度行うことが奨励されており、頻度として十分とは言えない。

【改善方策】

教育カリキュラム上、防災訓練を年に2回実施していくことは困難であるが、救急救命学科にて消防設備点検を毎月1回実施していく。また、消防署と連携を図った防災訓練を2年に1度実施し、避難方法等に対するフィードバックを消防職員から直接受けることで、内容の充実を図っていく。

Ⅶ. 学生の受入れ募集

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
35	学生募集活動は、適正に行われているか	☐	☒	☐	☐
36	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	☐	☒	☐	☐
37	学納金は妥当なものとなっているか	☐	☒	☐	☐

Ⅶ－35 学生募集活動は、適正に行われているか

【現状】

広報・入試委員会により学生募集活動に関する組織の強化を図っている。資料請求があった高等学校への訪問等を積極的に行っている。学校ホームページとオープンキャンパスの充実化を重点的に行っている。本校に対して興味を抱く高校生や社会人が増えるよう、現代社会に合った情報ツールを駆使し、学生募集活動を行っている。

【改善方策】

本校を幅広く伝えていくためには進路指導教員のみならず、その学校全体に対するアプローチも必要である。高等学校単位での本校見学会、各高等学校への訪問授業等の機会を増やしていく。

Ⅶ－36 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

【現状】

基本的に学校案内パンフレット等による説明を行っており、本校の教育成果等の現状については全体会議等で審議を行い、全教職員が統一して伝えていくことができるように努めている。しかし、現状として、高等学校によって理解度の差異が見られている。

【改善方策】

継続して、計画的で統一した学生募集活動を行っていく。また、前述と同様に、高等学校と関わる機会をより増やしていく。

Ⅶ－37 学納金は妥当なものとなっているか

【現状】

北陸3県の同系専門学校と比較して、各学科の学納金の額は、低い水準である。

【改善方策】

経済状況や学費納付率のほか、他校との水準を比較検討し、金額の妥当性について定期的に確認のうえ、学費体系の見直しを含め改善していく。

VIII. 財務

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
38	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	☐	☐	☒	☐
39	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	☐	☐	☒	☐
40	財務について会計監査が適正に行われているか	☒	☐	☐	☐
41	財務情報公開の体制整備はできているか	☐	☐	☒	☐

VIII-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

【現状】

総定員に対して学生充足率が低く、入学者が定員に達していない状況である。安定した財政基盤の確立を図る必要がある。

【改善方策】

既存学科の入学者確保を強化のため学生募集に力を入れる。

VIII-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

【現状】

単年度においての予算・収支計画は、経費の削減を行い適正に実施されているが、中長期的な予算・収支計画が現状の学生充足率では適正に実施できない。

【改善方策】

財政基盤の安定化を図る。

VIII-40 財務について会計監査が適正に行われているか

【現状】

年2回、会計士による会計監査を実施しているため、適正に行われている。

【改善方策】

継続して第三者による点検を実施していく。

VIII-41 財務情報公開の体制整備はできているか

【現状】

財務情報について HP 上で公開している。

【改善方策】

今後も継続して財務情報公開を行う。

IX. 法令等の遵守

4: 適切、3: ほぼ適切、2: やや適切、1: 不適切

評価項目		4	3	2	1
42	法令、専修学校の設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	☐	☒	☐	☐
43	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	☐	☒	☐	☐
44	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	☐	☒	☐	☐
45	自己評価結果を公開しているか	☐	☐	☒	☐

IX-42 法令、専修学校の設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

【現状】

設置基準等の遵守がなされており、かつ適正に運営されている。

【改善方策】

今後も法令・設置基準の順守等については、定期的な点検を行うことで、適正な運営を行う。

IX-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

【現状】

インターネットセキュリティの強化による情報漏洩の防止を行っている。また、学内における学生に関する情報掲示（成績や案内など）については個人名を伏せて学籍番号で通知している。

【改善方策】

今後も個人情報保護に関する定期的な点検も含めて適正な運営を行う。

IX-44 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

【現状】

教務活動、学校環境等に対する振り返り・課題に対する改善策の検討と実施、各イベントの振り返り等を各委員会で行っている。「専修学校における学校評価ガイドライン」（平成25年3月文部科学省策定）に基づく自己評価を実施している。この自己評価により全教職員が学校・学科の現状、課題を把握し、より広い視野で改善方策を見出すことに努めている。

【改善方策】

今後も定期的に、この自己評価を実施し、教育環境の改善に努める。

IX-45 自己評価結果を公開しているか

【現状】

本校ホームページに情報公開バナーを設け、自己評価結果を閲覧できるようにしている。

【改善方策】

今後も年次単位での自己評価を実施し、随時公開していく。

X. 社会貢献・地域貢献

4: 適切、3: ほぼ適切、2: やや適切、1: 不適切

評価項目		4	3	2	1
46	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	☐	☒	☐	☐
47	学生のボランティア活動の奨励、支援をしているか	☒	☐	☐	☐
48	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか	☐	☒	☐	☐

X-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

【現状】

教員が所属する団体や学会等からの依頼に対し、研修会・講習会等を開催する際に学校施設を会場として提供し、また、教員の派遣を行っている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施し、その活動範囲の拡大をはかっていく。

X-47 学生のボランティア活動の奨励、支援をしているか

【現状】

介護福祉系の施設ボランティアを中心に地域に密着した活動を奨励、支援している。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

X-48 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか

【現状】

認知症カフェへの参加などにより、社会貢献・地域貢献活動を行っている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施し、その活動範囲の拡大をはかっていく。